

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.185

2015/04/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

本年度最初の観察会はユキバタツバキ

15/04/05



ユキバタツバキの解説板もできました

昨年に引き続き本会主催「ユキバタツバキ観察会」を開催しました。今年は遅くまで降雪がありユキバタツバキの開花が幾分遅れましたが、色・形状・葉の特徴・樹形等中間雑種ならではの特徴を確認しながらの密度の濃い観察会となりました。ユキバタツバキについては、まだまだ分かっていないことも多く今後の調査・研究の必要性も確認されました。

雪融け後の保全作業

今冬は積雪量は少なかったものの湿雪の回数が多く、生木の枝折れ・枯死木の倒れ・落枝が以上に多くなり観察コース沿いの林床整備に追われています。

積雪で崩れた観察コースの整備・雪融け直後に設置した食害防止ネットもかなりの頻度でシカが侵入するためその巡視も日々続いています。また既にササユリの発芽も始まり、これまた食害防止ネットを順次設置するという日々が続いています。こんな中 4/12 には陽気も手伝ってか 80 名を超える来訪者で賑わいました。数日前にコース整備を終えたばかりで間一髪間に合ったという感じです。四季の森の臨床整備はほぼ完了し、明るいうつたりとした景観が戻って来ました。



四季の森・整備前(15/04/09)



四季の森・整備後(15/04/12)



県道入口総合案内



第2分岐 森のはたらき



中央湿原 湿原の生き立ち



南部湿原 湿原の生きもの



ヒノキの森 人工林



ブナの森

解説板新調

1998年に設置された観察コースの解説板は、長年の風雪にさらされ読み取ることも困難(第2分岐の写真の上の状態)になっていました。これまでの調査結果も加えて新調しました。このレイアウトは伊藤会員の労作です。これでガイド無しの一歩きの訪問者もこの森の特徴を理解できます。これまでより明るい色調が光っています。この解説板の設置作業は、レイカディア大37期みなさんの協力で行いました。運搬しにくい解説板をブナの森をはじめ各地点へ運び、古い解説板を回収するという大変な作業です。お疲れさまでした。



アカガシの森 山門水源の森の植物の特徴



四季の森 総合案内と森の生きもの



西浅井中陸上部波板設置替え(15/03/27)



北部湿原沢の浚渫(15/04/04)

毎年何回も保全作業に来てくれている西浅井中学陸上部の生徒諸君が年度末チップ材運び上げと南部湿原食害防止波板設置替えの作業に来てくれました。会員保全活動の日(第1・第3土曜日)には次々作業が待ち構えています。湿原への沢の浚渫も欠かせません。

ミツガシワの群生を回復するため2011年に設置した南部湿原の食害防止ネット等の効果は、昨年(2014)のトキソウ開花時期にも記載しましたが、現在今年も効果が出ていることが確認できます。ミツガシワの花芽がかなり伸びてきました。ただ付属湿地の花芽と比較すると、未だ一人前にはならない小さな花芽です。1990年代の群生の景観を取り戻すには未だ数年を要する



付属湿地のミツガシワ(15/04/12)



南部湿原のミツガシワ(15/04/12)

ようです。一度失った自然を元に戻すことが如何に難しいかを改めて知らされている感じがします。

コウノトリ再飛来

山門集落に昨年9月コウノトリが飛来しましたが、同一個体が4/1また飛来したのを元会員の中川進氏が撮影されました。それ以降数日この周辺に滞在したようです。彼等が望む環境がこの地域にはあるということなのでしょう。県道沿いの堰堤の浚渫が終わり、ここでもカモの飛来が始まりました。ビワマスは言うまでも無く、多様性が維持出来る環境が引き継げれば本会の望むところです。



コウノトリ(15/04/01)

PHOTO BY S. NAKAGAWA